

局長だより 11月

◇常任委員長だより 図書 啓展

●聞く力

教育実習生を担当して、次の指適を思い出しました。

「聞く力をつけるには、学校であれ、家庭であれ、必ず話す人の目を見つめさせることです。よそ見をさせないことです。もちろん、手遊びを禁じます。目で聞くといいことを徹底させるのです。話し手も、子どもを見て話さなければなりません。目で話すことによつて、いやおうなく、目で聞くようになるのです。それに加えて、話したあとは、具体的に何かをやらせるのです。字を書く、文を作る、本を読む、問題を解く、仕事をするなど、聞いたことをもとにした行動を指示するのです。いつも聞かせっぱなしというのでは、ややもすると、安易な聞き方をしがちになります。聞く力の伸びは、聞かせ切るといふ決意如何によりません。」(すべてのことにも確かな学力を、小一年篇 岸本裕史) 基礎基本ですね。

◇組織局だより 岡本 美穂

●どの子も落ちないぼんぼん

今年も「ICVA 関西主催の「課題別研修」のため、7か国から来日した14名の先生方が算数の授業見学に来られました。感想には「生徒達の元気でしかも本当に早い彼等には全く信じられなく速い計算スピード熱心な学習姿勢、その集中力のすごさには研修生一同大変驚いておりました。彼らの学びはこれから作り上げる彼らの国の教育の展望の大きな礎石になるものです。研修生たち各々は自国でこれから実践に移す段階に入ります。」と書いてくださっていました。私たちは今「主体的・対話的で深い学び」という新たな指針に向かっていますが、基礎基本を土台にすることを忘れてはいけません。そしてもう一つ、どの子も落ちこぼさないということはこの授業ではどうすべきなのか?ということも本気で考える時期にきています。学力研とともに学びましょう。

◇千人プロジェクトだより

●サークルの意義2

岡 篤

(前号より) 大学一年生の次男と歴教協のサークルに参加した帰りの電車です。「どうだった?」と聞いてみました。「うん…、ちよっと難しかったかな」といった辺りの返事を予想していました。意外なことに「おもしろかった。また行ってみたい」というのです。

勢いを得て、帰り道、私のサークル論を語ってしまいました。教師が一番学べるのは、自分の教室であり、職場だと確信を持っています。そこから食欲に学ぶ意識がなければ、いくら本を読んでも、セミナーに行っても、単なる知識が増えていくだけです。逆はありません。

ただ、サークルに参加するということとは、そこから一歩踏み出すということとです。同じ教師の集まりであっても、このことが大きいのです。(続く)

◇学力研最新情報 岸本 ひとみ

●冬の算数フォーラムへ

11月。そろそろ、年末の予定を考えられる頃でしょうか。その中に、ぜひ12月23日(土)の、冬の算数フォーラムを入れて下さい。こくちーずでも申込できますし、下記にfax申込もできます。会員の方は、もちろん参加費が割引になります。

算数フォーラムに限らず、春の学級びらき講座、地域サークル主催の学習会などにも、会員割引を設定しています。今月、オレンジ色の継続お願い用紙が届いた方、ご自身の会費振り込みとともに、同僚や知人の方にも、一声かけて、いっしょに入会して下さい。一人で実践を続けるより、仲間がいる方が励みになりますし、長続きしますよ。

学力研 事務局 日中は留守電です。悪しからず。

Fax : 079-426-5133 mail : kira_h58@yahoo.co.jp (アンダーバーを使っています ^^)